

大型定置網で漁業の発展に貢献

堀埜与右衛門・酒井光雄

堀埜 / 1882 (明治15) 年2月20日—1969 (昭和44) 年7月6日

酒井 / 1941 (昭和16) 年9月14日—1998 (平成10) 年2月1日



氷見に大型定置網を導入

定置網を改良

定置網を世界に普及

網元を継ぐ

氷見では江戸時代から「台網」と呼ばれる定置網が発達しました。堀埜与右衛門は明治時代に射水郡加納

出村 (現氷見市) で定置網の網元の二男に生まれました。氷見市宇波村 (現氷見市宇波) の定置網の網元の長男に生まれた酒井光雄は、大学の水産学科でシステム工学を勉強しました。

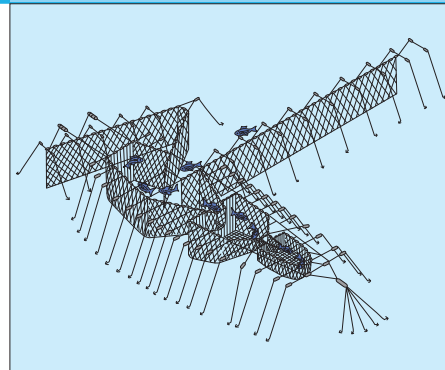
夢や志をかなえたポイント

- ・古いものを生かす
- ・新しい考え方で改善する
- ・よいものは紹介する

新しい技術を導入

与右衛門は宮崎県で考案された「日高式大敷網」という大型定置網を氷見でも取り入れようと考え、1907 (明治40) 年に大型定置網を設置しました。するとその年の暮れには、初めて1万尾以上の鰯がとれ、何十隻もの船に積みこまなければならないほどの大漁となりました。大敷網はその後も氷見の漁師によって改

良され、普及していきました。光雄は潮の流れや魚の動きなどを調べ、システム工学*を取り入れて定置網に改良を加えました。人工衛星を利用した魚群探知機を使ったり、コンピュータを用いて魚の値段の変動に合わせて出荷量を調整する技術を取り入れたりしました。また、海外からの研修生を積極的に引き受け、定置網漁を広めるために貢献しました。



定置網は沿岸近くの海の中に、魚の道筋をつけるように網を張ります。

*システム工学【しすてむこうがく】 いくつかの要素がしっかりとした役割を果たすことで、物事の全体や機械をうまく動かそうとする研究です。